

ゐますから、本國に綿毛等が無くても、平氣の平左であります。米國は圖の如く、本國の供給に有り餘つて、外國へ輸出してゐます。でありますから、諸君は着物といふことに就いては、餘程考慮せなければなりません。

次に主要な五穀は日本では年産額一人當一石六斗、英國は一石五斗、米國は一石八斗で芋類は日本は一人當二十四貫、英國は三百十一貫であります。此の様に英米は有り餘る程澤山あります。加奈陀に産す小麦粉は、メリケン粉となつて日本に來ます。米國からもメリケン粉は來ます。先年の様な米騒動の時、米國からはメリケン粉、或は印度米、南京米が日本に來なかつたら、我々日本人は食物に困ります。若しも此等の物が外國から來なかつたならば、我々は飢ゑ凍ねなければなりません。もし其の様になつたなら、米騒動の比ではありません「ヒモジイ」腹を抱えて、ブル／＼振へて居なければなりません。其の時には日本は全滅の外は有りません。

次に本土一平方哩に就いての人口の割合は、日本が大きい顔をしてゐますが、鑿めた大きい顔をしてゐるわけで、日本は今の一平方哩で食料品も衣服の原料も、鐵も石炭も、牛、馬、豚も作らねばなりません。誠に窮屈な思ひをしなければならぬのであります。英國は領土が廣大で、而も海には自由に歩く安全な海軍がありますから、本國に於て食物衣服の原料等を作る必要は有りません。日本の台灣樺太は人口が多くて、其の産額は土人の供給は漸く足る位です。此の間の米騒動の時には、台灣米、南京米が

日本の内地へ來ましたが、此等は皆古米で捨てようかとも云ふべきものを持つて來たので、其の「マツイ」ことは云ふまでもない。斯くの如く我が日本は領土から本國への移入は有りません。然らば日本は海の權力即海軍力は如何であらうか。大正八年の統計に因れば戰艦巡洋艦の數は

日本 一七

英國 四三

米國 三三

であります。處が皆は知らないであらうが、軍艦は八年迄が第一期で第一線に立ち、九年目から十六年迄は第二期で第二線に立ち、十七年目から二十四年迄が第三期で國防の任に當り、二十四年目後の軍艦は使用に堪へなくなり、軍艦の壽命は盡きてしまひます。でありますから巡洋艦、驅逐艦を云はず、主なる海軍力をなす戰艦に就いて比較せば年々減少します。一年に四隻作つたなら、九年目には同時に第二線に立ち、十七年目には國戰に二十五年目にはなくなります。昨年末には日本海軍の主なるもの戰艦九隻で、十七隻から一躍九隻に至つたので、昨年の議會に八八艦隊を作ることを決議しました。それで大正十六年には十六隻になりますが、大正八年より一隻づつ減少するので、少しも擴張ではありません。然るに近頃新聞では擴張擴張と云つてゐるが、只物貨が高くなつた、爲、經費が多く掛るので、決して擴張ではありません。

近來世界の進歩に従つて、大きな軍艦が出來ます。それに日本のみが小さい軍艦を造つて居ることが出來ませうか。日本は八八艦隊位で國威を穢すことなく世界並に國防を満し得るであらうか。誠に消極的小海軍に國民諸君は甘んぜらるゝであらうか。私は其れを尋ねたい。國民學つて日本を擁護せねばならぬ今日、此の國防で十分に満足し得るであらうか。只海軍士官は専門家として戰術戰略が必要であるが、世界に對する海國民として、先づ世界の大勢位は是非心得て置かねばならぬ。

先づ次の圖に於て（圖ニテ示ス）新武器なる飛行機は陸海軍共で

日本 百

英國 二萬

米國 一萬

百といへば随分大きい様だが、英米の一萬、二萬に比較すれば些少なものである。それに尙英米では益々之を獎勵してゐます。日本は非常の奮發をせなければ、到底、彼等と肩を並べることは出來ません。

潜水艦は

日本 一六

英國 九〇

米國 一六三

尙大正十二年度になれば米國は二二三其の時日本は二〇か三〇で非常に貧弱で到底相撲になりません。番附にも入らぬ位です。

商船は日本が維新以後非常な進歩をしてゐます。尙一層の努力を要します。海上運送船を日本が最も多く有してゐるのは、日本が海の交通機關を專有する資格を持つてゐる證據であります。一昨年より昨年までに、日本は非常な金儲けをしたといつて喜んで居るが、大正八年の貿易額は

日本 四十二億七千萬圓

英國 二百億圓

米國 二百六億圓

日本は世界の強國と肩を並べて一等國になることは到底出來ない。他のベルギー、スペイン、オランダ等の古強國が今日弱國となつたから、日本が強國の一となつたに過ぎないので、實に危い位置に居ります。でありますから、非常努力を以て富國強兵の實を擧げねばなりません。油斷をすれば忽ち蹴落されます。

次に水産額の年産額が

日本（北海道、台灣、樺太） 二億五千萬圓

英國（本土、印度、加奈陀） 二億三千万圓

米 國 (フィリピン、ハワイキューバ) 二億二千萬圓

水産額に於て日本が初めて世界の最高權威を得たので、愉快極まることではありますが、併し總てが最高點に達したものです。

海岸線が第一、水産額が第一、これは兩端のみで(圖ニ於テ)中央は非常に貧弱であります。天與の海岸線と人工の水産額が世界第一とは誠に面白い比較であります。面積中屬地は日本が一番小、英が最大、米は日本よりも大であります。住民は日本が米の二倍で、英は云ふまでもなく二億で、日本は年々六十萬人も増加します。併し我が國は衣食が足りません。屬地に望む。といふことは云ふべくして行はれないのであります。故に世界に發展するには他國に寄留して商賣するか、移住して開拓するか、種々方法で發展せねばなりません。領土を多く有せずして海外發展を爲すには、どうしても國家の權力が必要であります。日本は五大強國の一として米國と肩を並べる様になつたが、近來排日の聲が盛んで、毎日新聞紙に報道され、濠洲、加奈陀、ニュージーランドを米人は白人の加奈陀等と申してゐます。天は白人に世界を與へません。神は平等に世界を各人種に與へました。世界は決して白色人種の物ではありません。然るに米國は一權力の下に吾人を度外視し、壓迫し、或は將來有色人種を奴隸に使ふかも知れません。我等日本人は、如何しても日本的の義人道、博愛等自然に協つた王道を世界に振り蒔かねばなりません。幸に海を多く有する日本、其の將來の日本を双肩に擔ふ諸君は、自己を捨てて天惠を利用し、國家の爲に大いに盡力せねばなりません。

近世の偉人乃木將軍は、實に眞面目な人で、我が身を忘れて國家の爲忠誠を盡された方であります。乃木講は即乃木將軍の誠意を守り、乃木將軍の如き偉人となつて、世界を征服する日本人となるのが目的であります。

米國は近時海軍の大擴張を行つてゐますが、其の理由とする所は、米國は自供自足の國で、衣食は本國に於て供給が十分であり、長い間全くの商業國として軍備に重きを置かず、唯國防に止めてゐました表に因れば(表ニテ圖示ス)明治二十六年米國の海軍は此れ程、三十五年には少し伸びたが、餘り大でない。大正七年には大分盛となり、大正十二年には非常に長くなるのであります。自供自足の國で、何百年來他國より犯されたことのない米國が、今日何が爲の大擴張でせうか。又英國の海軍力は何が故に世界一となつたのでせう。今日こそ英國は大領土を有してゐるから、大海軍が必要であります。彼は英國は大領土を有し、然る後大海軍を造つたのでありません。大海軍造つて後大領土を得たのであります。然らば何故に少なる日本が大海軍が必要かと云へば、丁度英國が小國に甘んぜず大國を建設せんとして大海軍を造つた様なものであります。世界に發展して生存の安樂を得るには、どうしても海上權が之に伴はなければならぬといふことは、歴史に照して明らかなことであります。でありますから、止むを得ず大海軍を組織するのであり、外國と戦ふ爲ではありません。只自衛の爲であります。外國と戦ふ

目的で海軍を造る様なことは到底問題になりません。唯八八艦隊位は何んにもならぬのであります。弱國に對してならばいざ知らず。苟しくも敵國となるべき大國に對しては物の數に入りません。我々日本人は相當の國防をなし世界に發展せなければ食ふことも出来ません。衣ることも出来ません。或は外國人は「衣食せずとも良い」と云ふかも知れないが、此れは日本に對し全滅せよと云ふ意味であります。米國は海上權を振つて世界權を掌握せんが爲、先づ其の手始として海軍の大擴張を行つて、第一時は三年計畫で大正十二年度に出来上るのであつて、尙一隻だけは未着手でありますが、他は皆着手してゐます。此の表に依りますと、(圖ニテ示ス)赤線が今日の戦艦の數、青は建造中、緑は未起工であります。日本は完全せるものが五隻、建造中のが四隻、未起工が四隻であります。米國は常に主力を三十三隻有する計畫をしてゐます。又ウイルソン大統領がベルサイユに居て、外國と會議中第二回海軍擴張案を作つたが、其れは戦艦十隻を以て世界第一の海軍力を作るといふので、其の豫算は下院は通過したが、上院で否決されベルサイユ會議中に今度様のな世界第一の海軍力に抗し得る海軍力を作るといふので、第二番目の案が無事通過したのであります。列國は其れと聞いて非常に驚きましたが、英は殊に驚きました。驚くのも無理はありません。英國は幾百年來世界第一の海軍力を維持して居ましたが、今度米國が其れ以上の大海軍を有すると云ふことはそれは――英國民にとつては非常な問題であります。英國は米國との戦争は不利であり、且今度の戦亂で財政が逼迫してゐる。又佛伊もさうであると考へ、米國の大擴張

をうまく止めさせようとして、英國自らが海軍休日論を首唱しました。之を聞いて米國の財政困難を察し「あの英國が弱根を吐いたか、よしそれでは第二番目の擴張は止めようと云つて、撤廢しました。併し獨、佛、伊は米國に大なる餘裕の有ることを知つた。而して弱國は皆米國は金力、武力何れの点に於ても信頼するに足ると考へ信頼し始めた。先に云ふ落したが、戦艦は

伊 五

佛 七

巡洋艦は

既成のもの 建造中

日 四 八

英 九 〇

米 〇 六

佛 〇

只今では米、英、日の三國のみが海軍力を認められて、日英米の海軍力縮少が唱へられてゐるが、到底比較にはなりません。猶彼等は抵抗の不可能なことを知つてゐます。我が國の貧しいのを知つて、少しも相手にしません。

先の圖に因ると、英は赤のみで、青も緑もありません。即建造中も着手すべきものもなく、古い物はかりです。此れは英國の財政困難の爲であります。此處に各國の國債高を參考迄に擧げて見ませう。

	戦前	戦後
英	七〇億	七六〇億
佛	三六億	九〇〇億
伊	六〇億	三〇〇億
白	二〇億	八〇億
米	二〇億	三〇〇億
獨	二〇億	九八〇億
露	九〇億	五〇〇億
埃	七七億	五四〇億
日	一	三二億
日本が最少であります。		
次に各國が米國から借りてゐる金高は		
英	八六二二〇〇萬圓	
佛	六〇九四〇〇萬圓	

伊	三二七四〇〇萬圓
白	六八〇〇萬圓
露	三七四〇〇萬圓
其他	三五六〇〇萬圓
合計	一九三一六〇〇萬圓

各國は利息を拂ふことが出来ないから、金貸しの米國は威張り海軍力の發展を圖り英佛伊の閉口してゐる際に、國際聯盟を無視しヤップ島問題を惹起し、我儘を申し立て、居るが、各國は米國より借金あり利息を拂ふことが出来ないから、且各國の死活問題に關する時であるから、米國の云ふことを御無理御尤と聞いて米國を客分として取扱つてゐる。それで米國は益々日本に勝手な事を云つて來ます。今一つお話せねばならぬことは、軍艦を造るには台即艦台といふものが必要であります。又其れに伴ふ各種の機械が必要であります。其の艦台の數が

日本	四
米國	一六
英國	三〇

日本は同時に四隻の艦を造ることが出來、英國は同時に三十も造ることが出來ます。英米國には艦を

造る材料が澤山ありますが、日本には材料が有りませんから、危急の場合には假令艦台は四つ有つても艦を造ることは出来ません。英米は海軍休日論を唱へてゐても、いざ鎌倉といふ場合には、何時でも軍艦を建造することが出来ます。日本は原料がないから、それが出来ないのです。彼を知るといふことは誠に必要なことであります。今迄話して來たことに於きまして、軍備縮少は陸海軍共の縮少であります。世界に對抗する外交及貿易上には是非海軍力を伴はねばなりません。海軍力を伴はない外交貿易は世界に重きを置かれないのであります。

今日西班牙、葡萄牙、和蘭は海軍力を衰弱した爲、國勢が振はないのであります。海軍の擴張は今日の急務であり、國家の盛衰に拘はる大問題であります。

歴史は國家の盛衰を示してゐます、國家盛衰の原因を知り、國家の隆昌を圖らねばなりません。海軍協會は日本の運輸上、外國海軍の材料を調べて色々の機會を用ひて此等を諸君に知らすのを目的としてゐます。

餘り長くなりますから、これ位にして置きまして、次には日本海々戰の事跡をお話ししようと思ふのですが、暫時休憩して後お話しすることに致します。これにて……

附記

參考に掲げられし統計表の一二を示さん。

列國督級艦隻比較

大正九年十月調

既成セルモノ(赤)

建造中(青)

未起工(綠)

戰艦	巡洋艦	伊佛艦	日	佛	伊	日	英	米	英
三三二	一六	五	七	五	四	九	〇	六	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

列國海軍實力比較

明治二十六年	三十五年	三十七年
日 三五五〇〇	一四二二〇〇	一五八七七二
英 四四六六〇〇	四四二六〇〇	五九一五五〇

佛	二二一六九〇	一五七六〇〇	二四二二二三
露	七九三五〇	一二六九〇〇	二一八七五九
米	六七四五〇	一二九八〇〇	一一八八三〇
獨	四四六〇〇	九四三〇〇	一五二七二八
支	五一六六〇		

それでは是から日本海々戦に就いてお話し致しませう。只今承りますと、四時汽車に間に合ふ様に早くやつて呉れとの事でありますから、少しく略してお話致します

日露戦争當時我國の海軍力は戦艦六隻、巡洋戦艦六隻、所謂六々艦隊であつて、露西亞のは旅順方面に活動してゐたのとバルチック艦隊とを合すれば、戦艦十五隻巡洋艦九隻と云ふ數であつた。我軍は此の六六艦隊より増すことが出来なかつたので、先づ旅順港を陥れて、後にバルチック艦隊が來て欲しい希望でありました。當時私は敷島の艦長でありましたので、親しく戦にも接して居ります。そして此の戦の間には随分不思議な事實、奇蹟がありました。から、二三お話し致しませう。

當時の新聞紙や電報に依つて御承知の通り、バルチック艦隊は明治三十七年十月年にリボーと云ふ軍港を出發した。其の時分旅順の艦隊は現存して居つた。日本としては一日も早く此を片づけ、旅順港を陥れなければ、後の準備に困ると云ふので陸軍では乃木將軍が所謂無理な攻撃を度々敢行し、海軍は大き

な砲を陸揚げして港の内外より攻撃した。一方バルチック艦隊は本國を出發してから非常に億病神につかれて居たと見えて英國とノルウェーとの間の北海を通る頃、どこからか日本の潜水艇が夜襲をして來たと、云ふ報告があつた。そこで司令長官ロジェスト、ウエンスキー中將は發見次第撃沈すべしと云ふ命令を下した。翌朝になつて見るとそれは潜水艇ではなくて英國の漁船であつた。バルチック艦隊は漁船を撃沈したのであつた。然も相手は漁船のことであるから武裝と云ふものは全くして居ない。然るに露國の艦隊は數名の死傷者を出して居つた。此の事件の爲めに英國との間に葛藤を生じ、艦隊は佛國の或港に約一週間程滞在して交渉をして居つた。露本國からは交渉はこちらで方附けるから早く出發すべしと云ふ命令が到着したので交渉もそこそこに急いで出帆した。そして司令長官は船脚の深い軍艦は太西洋を航して亞弗利加の南端喜望岬を迂回し、船脚の浅い軍艦は地中海を通りスエズ運河を通つて、共にマダガスカル島へ着くべしとの命を下した。十二月廿八、廿九兩日に互つて兩艦隊はマダガスカル島に到着した。けれ共地中海を通つて行つた方のは島の北岸に着き他の方のは南岸に着いたのであつた當時の無線電信は誠に不完全なものであつたし、マダガスカル島と云へば世界第一の大島で日本などよりよほど大きい。兩艦隊は共に盛んに通信をしやうとしたけれ共何の返事もなかつた。所が北岸に着いてゐた方の艦隊の間に妙な風説が傳はつた。喜望岬を廻つた艦隊は途中で日本の艦隊に出遇つて全滅させられたと云ふのであつた。然も他の方でも同じやうに、地中海で日本艦隊の爲めに敗られてしまつた

と云ふ評判が立つた。兩方共まるで狐につまづかれた様な話して是も奇蹟の一つであつた。大体こんなことになるのは指揮者の命令が不完全な爲めで、あの大きなコダガスカル島へ着くのに東岸とも西岸とも指さないと云ふのが、抑々間違の元であります。そこで漸く出遇つたのが三十八年一月十三日で、當時は既に旅順の艦隊は全滅されたとの報が傳はつて居りました。こゝに於てロジエスト、ウエンスキー中將は先づ浦鹽斯德に入り、そして後日本軍の軍需品運送路を遮斷して滿洲軍をおびやかしてやらう計畫し、之を本國に聞かした所が本國からは之に反對の命令が來、本國に残つてゐる軍艦も送るから一緒に連れて行けと云つて來た。中將はそんなボロクサ船を連れて行くと反つて手足まごひであるからと云つてやつた。けれ共本國からはいや／＼是非共つれて行くと幾度も云つて來た。中將はもうやけになつてしまひ、味方の議論は區々で益々航行を遅くしてしまひました。一方我艦隊ではこんなことでよい機會を得、二月の初旬には準備は全く完全に出來てしまひました。それに敵はまだマダカスカル島で盛んに議論をしてゐました。かくて敵艦隊マダカスカル島を出發したのが三月十六日で四月十三日佛領アンナンのカムランに着いた。當時の事は新聞や電報でよく御存じのこと、思ひます。此處で第三番目に來るネボカトー將軍を待ち合はして、五月十四日までグズ／＼してゐました。誠に變な名前でネボカと豆腐が寝惚けたのか分らぬ様な名です。我軍は此時になつて愈々日本へ來るのだと云ふことを初めて確かに知つたのであります。然し對馬海峽を通り日本海から行くか、太平洋を航して津輕海峽に入り浦鹽

に行くかと云ふことが、日本に取つては大問題でありました。所が或る事情に依りまして、我が三井物産會社の一空船が捕縛されました。彼等は敵國の船でありますから、どうしやうと勝手であるのに、不思議にも再び解放したので、船長以下船員一同意外に思つて居りました。而も其の上、我軍は太平洋から津輕海峽を通つて浦鹽へ入ると云ふことまで告げて呉れたのであります。日本へ歸ると直ちにこれを大本營へ報告したのであります。大本營に於かれてはこの知らせに依つて敵艦隊はきつと反對に對馬海峽を通つて浦鹽へ行かうとするに違いないと推定し、鎮海方面に我主力艦隊を置いて敵の來るのを待つたのであります。其の後の情報に依りまして敵艦隊は上海に入り、石炭を積み込んでそれだけの速力での方向へ進みつゝあるかと云ふことまで分りました。五月二十六日の晩になつて艦隊は愈々日本の領海に入るから大いに緊張せよと命令を下したのは誠に立派でありました。彼等は大いに警戒しつゝ、三縦列となり、中央に弱船を置き兩側に強い艦を並べて堂々として進んで來ました。五月廿七日午前二時半、サイシユウ島と長崎との間に在つた哨艦信濃丸は一つの船影を認めた。見張りに行つて居る艦は皆影繪と云つて敵艦の人相書を持つて居ますから、それに照し合はせて、愈々露西亞の艦であることを確め、儼してやらうと近づいてボートを下さうとしてゐると、自分のまわり、千米か千五百米位の所に澤山があることに氣がついた。是が丁度午前四時であつた。大いに驚いて敵艦の間から逃げ出すと同

無線電信を以て敵艦見ゆとの報告を本隊に傳へた。又敵の進路もたしかめて之を報告し、そ

の速力も知らねばならぬから之と並行して航し十二節であることを見定めました。

さて私共は午前六時に鎮海を出て彼等に向つて突進したのです。彼等は日本の主力がこゝに在らうとは少しも知らず、ズツと北の方にあると思つて居たらしい。所が漸く彼等の煙が見える時になつて氣が付いたのでありましたが、矢張り三縦列で進んで來ました。一体三縦列と云ふ様なのは有利な陣形ではないのです。兩軍の間が一萬米位に近づいた時漸く敵は戰鬪の陣形になほしました。其の時分から彼等はいよいよ砲撃を開始して居ましたが、我軍は遠距離の射撃を止めて六千米以内に近づかなければ應戦しないと決定して居ました。初めは敵の砲撃も中々悔られないもので、敷島はまだ發砲しない前に二發を受け、死傷を出すと云ふ様な状態でありました。然し敵の速力は十二節で我軍のは十七節であつたら非常に好都合で思ふ位置へ行くことが出來ました。丁字形になつて我軍の十二隻から敵の先頭の艦へ一度にあびせかけたので、まるで花火線香の様にパチ／＼と、火災を起すやら柱が飛ぶやら。先頭の艦が此の様になると次に續いたのはどうしても進むことが出來ない。射撃どころか自分の船の操縦に困つて居るので彈丸はたまに前や後にボツ／＼と落ちる位、我軍は委細かまはずこちらをたゞけそちらを打つて自由自在に打つてゐる中午後四時には四隻の敵艦がデン／＼返つてしまつたのであります。

翌日即ち二十八日午前十時鬱陵島の近海で打ち残された四隻の敵艦を發見し、我主力艦隊と其の他の軍艦合せて二十一隻が此の四隻を取り捲いた。彼等は一も二もなく降参して白旗を出すと同時にロシヤ

の軍艦旗を下して日本の軍艦旗を揚げた。彼等は最初から負けるつもりでもあるまいに敵國の軍艦を旗用意して居るゝには私達も全く驚いてしまひました。早速此の四隻は日本のものとなつてしまひ、澤山の捕虜は各艦に分けて收容することになりまして、私の船にも二百余名のものを容れて佐世保へ歸りました。

後で聞いて見ると露西亞の艦隊は我信濃丸があの様に活動してゐたことを少しも知らなかつたさうです。二十六日の午前六時半頃信濃丸は東の方へ艦を向けて進み、六時四拾五分に和泉丸が丁度前に信濃丸の居た位置へ來てゐました。此時彼等は和泉丸を見て、初めて日本の軍艦に會つたのだと思つて居ました。戰史篇纂員は餘り不思議に思つて捕虜に尋ねたり、その手記を調べたり致しましたけれども、一人も信濃丸のことを知つてゐるものは有りませんでした。あんなに敵の間をくゞつて歩いて、敵艦の数は三十六隻で、陣形はどうで、速力は十二節でなどと詳しく調べてゐたのを少しも知らなかつたのは誠に不思議です。六十餘隻の大艦の一萬何千人の目が見えなくて、我信濃丸の乗組員の目ばかりが見えたのです。彼等の目の前へ神様が垣をこしらへておいて下さつたのかも知れません。

三十六隻の敵艦の中三十隻は或は撃沈されるやら、火災を起すやら、岩の上へのしやがるやらしてなくなつてしまひ、残りの六隻は上海へ逃げ込むやら、マニラへ入つて拘留されるやらでありました。

此の大勝に對して 天皇陛下は五月三十日我が艦隊に次の様な詔をお下しになりました。今拝讀いた

しますからそのまゝで居て拝聴せられんことを願ひます

——奉讀さる——

此の詔に對して東郷司令長官は報告文を奏上し奉られました。

此の様に露西亞の艦隊は大敗したのに拘はらず、我國の方では少さい水雷艇三隻失はれたばかりで、他は皆健全でありました。三月に初まつて十二月に終るまで旅順の艦隊とも戦ひ、其の他度々戦つて居たのに一隻も砲火の爲めに沈没したことはなかつたのです。

海上に於て此の様な好結果を得たのは我等當事者にとつて誠に不思議であります、日本海の戦の當日は非常に霧が深く一萬米以上になると全く互に姿が見えなかつた。我軍と敵軍とは常に丁字形になつたものですから彼は耐へられなくて艦首を一方へそらす。そうすると忽ち一萬米以上になつて見えなくなつてしまふ。致方がないから我軍は速力の有るのに任せて進み、こちらへ來るだらうと思つてゐるとニョツキリと出て來る。ソレツとばかりにたゞきつけると又見えなくなつてしまふ。今度はこちらへ來るだらうと進んで行くと又ニョツキリ現はれる。此の様なことが三四度ありました。後で東郷閣下にこの事をお話をして誠に立派な御指導であつたと申上げると、いやあれは別にこれと云ふ考もなく、こちらへ行けばよからうと思つてあてすつばに行つたに過ぎない。只だらう／＼で行つたのが此の様な好結果を得たのである。是は全く神様のお指圖であつたのだと謹しんでお語りになりました。あの奉答文で

も報告文でも此の真相をお書きになつたものであります。

段々時間も切迫して來ますからこれで切り上げます。

文責任記者

陸軍教育總監部

太田少佐講演

——大正十年九月廿七日——

私が只今校長先生から御紹介に預りました、太田少佐であります。本日は只今校長さんが申された様な目的で當校へ參つたのでありますが、何か話せとのことでありましたので之と云ふ御參考になるまいでせうが、一二申して見ようと思ひます。私の申し上げやうと思ふ事は主として將校になる學校の制度のごとでありまして之の制度が先般變更になつたことは、皆様も既に御承知のことと存じますが、まだ御分りにならない方もある様ですから、それをなるべくよく分る様に、又陸軍へ御入りになる方の御參考になる様に御話したいと思ひます。尙それから日本の現在の立場と云ふことについても若干御話しようと思ひます。

先づ第一に日本の今の状態は如何、このことに就ては諸君は已に諸先生からも聞かれ、又諸君自身にも新聞雜誌等について御研究のこととせうから、私がこゝで今更申上げる必要もありませんまいけれども

若干御話ししやうと思ひます。少しでも御参考になれば結構と存じます。御承知の如く、日本は現在世界の五大國の一つに入つて、國威も大いに揚り、英米等の諸外國も、日本を措いては何一つ勝手に主張も出来ないと思ふ状態になつてをります。此の國威を層一層世界に發揚することは、吾々國民の責務であります。諸君は將來に於ける日本の中堅となるべき人々なるが故に、よく日本國の消長を考へ、常に之を念頭に置くことは目下の必要條件であります、故に現下の我が國の状態について概略御話したいとひます。

諸君歴史によつて承知しておられるやうに、日本國民が眞剣眞面目になつて、働いたのは、實に日露戦争でありました。日露戦役後大いに努力し、苦心慘憺した結果、漸く國力を回復し、遂に日露戦役に大勝し、其の後漸く世界列強から日本の存在を認めらるゝ様になつたのであります。でありますから、戦役が済んでから、大いに安心してしまつて、稍浮腰になつたところでも云ひませうか、小事に安んずることも云ひませうか、悪く云へば國民の精神の持方がゆるんでしまつたのであります。動もすると小事に安んずると云ふ傾向が起つたのであります。そしてその傾向はそのまま、歐洲戦争にも及んでゐるのであります。歐洲戦後一般は極めてゆるやかな氣分になつて居ります。

此の戦争の結果、黄金が我が國に入つて、大いて成金國となつた。國民全部ではないけれども、多くの人が成金になつた。戦争に参加した各國は非常なさいなんに遇つた、時に、日本は何もならぬに天下太平に進んでゐるものの如考へてゐるらしい。

歐洲各國は五ヶ年間に、苦しい一經驗をなめたに比し、日本は其の樂を飲んでゐると云ふ有様で、彼等は丁度苦學生であり、我は増長し切つた我儘息子であります。此の様な状態を繼續して行くならば、彼等は短時間中に、非常な進歩をし、萬事完成して行きませう、兎に角彼等は此の大戦中に苦しい試験を受けて居ります、勿論失敗もあり、成功もありますけれども、結果としては大いに良好であつた。

それに日本は此の様な結構なものは少しも受けず、只少しの金を得たけれども悪化しております。或者は大切な大和魂をどこかへおとしてゐるのでないかと思はれるものさへあるのであります。一括して申しますれば、只小成に安んじて惰氣慢々と云ふ状態である。然るに一方彼等が大いに緊張して居りますから考へると、此の間に大なる差が生じねばならぬのであります。そこで我々は我が帝國を安全にする爲に、外國と我國との關係を詳細に知る必要があらうと思ひます。でこれから日本國民との關係如何、それについて申し上げませう。

我が國に關係ある國には色々ありますが我が國に最も關係の深のは英米及支那であります。

先づ第一に英米の關係について申し上げます。元と英國と米國とは同一種族であり、又國語も同じく英語

をつかつてゐる、殊に大戰にて同一側に立つて働いたのでありますから。當然非常に仲がよくなくてはならぬ、然るに今日は大變仲が悪い、何事について見るも考へが相反してゐます。元來英國は世界中でこんな大きい、こんな強い國はないと思ひ、米國は大戰の結果よく金を儲けて大いに自惚心を起し、英國を侮り始めた。それで互に壓迫してやうと考へてゐる。そして英國は元は非常な債權國であつたが大戰の結果勝つことは勝つたもの、大いに債權國となつてしまつた。之と反對に米國は大なる債權國となつた。

そこで英國は何事につけても遠慮しなければならぬ様な譯です、元來惡くないはずの兩國の仲が悪いのは、爭奪戰の結果であります。

一体米人は傍若無人な振舞をする人間で、自分の主張は是が非でも、どこへまでも通さうとする、性質があります。それに力が強くなつたから、一層之れが増長してしまひました、併し充分國力が充實してゐるならば英國に取つては何でもないのであるけれども、今は大戰の結果國力が疲弊してゐる爲、米國との衝突をなるべくさけて、御機嫌を取るのに汲々としてゐる。その一二の例を擧げて見よう、英國は戰爭前までは海軍國では世界一であつた。併し今は米國が之を凌かうとしてゐる。今では到底米國に對抗することは出来ない、英國は大西洋方面に軍艦を造り度いれ共、それでは米國に睨まれて不利だと云ふので遠く東洋のシンガポールで八八艦隊を造り、將來の活動舞台は極東にありと云ふ様な風に

見せかけて、米國の注意を出來得る限り日本の方へ向けやうとしてゐる。

又日英同盟は既に期限が切れてゐる。そしてこの同盟なるものは、我國にとつても、英國にとつても、東洋平和の爲誠に効果は少くはない。であるからして、兩國の爲に將來もあつた方がよいのであるから日本は更に繼續することを望んでゐる。又英國も同じやうに思つてゐるのであるが、英國は米國を恐れて、即ち米國の感情にふれはしまいかと懸念して、締結することを控目にしてゐる様な次第である。又かの愛蘭が獨立を希望してゐる。其れを米國が干渉して大いに助力してゐる。英國は自分一國の事に關して干渉を受けてゐ乍ら、それをやかましく云ふことが出来ない。米國の機嫌をそこなつては困ると云ふので黙止してゐるのである。又支那問題に關しても、極東に於て、今後益發展して行く。之の關係の最も深いのは英米である。故に英米は東方に於ては同一歩調であらねばならぬ筈である。然るに事實はさうではない全く反對である。

阿片戰爭以來英國は揚子江沿岸を自分の物の様にして大いに勢力を張つてゐる然るに米國は門戸開放をやかましく主張し、殊に北清事變の際英國は償金を取つたけれども、米國は其れを返し、支那の教育費に充てるなどして支那を籠絡してしまつたまででは云へなくても、兎に角支那に惡感情を抱かせぬ様につとめてゐる。此度の國際聯盟に於ても、彼の山東問題に關して英國は我國は同情を持つて、日本の意見が通る様にしてゐるが、米國は支那に肩を持つてゐる斯く米國のすることは總て「米の敵は日本な

り。」と云はんばかりのことです。

御承知の様に、英國は揚子江沿岸に大勢力を持つてゐます。だからして若し米國がそちらへ來るならば衝突することは分つてゐます。これは英國の好まぬ所で、もつと他の方へ米の勢力を向ける様にせねばならぬ。そこで米國は方向を滿州、蒙古の方へ轉することになります。さうなれば英國は何の障もありません。さうなると日本の立つ瀬がない。これは實に日本の將來に非常な關係ある問題であります。

元來日英同盟がある爲、東洋の平和が保持されてゐましたが、今後ともそれが永く續けば中々の効果があります。然るに先きに申し上げた様に、英國が若干繼續を進まぬ様になつた、之の理由は米國の勢力を恐れるからであります。一方商業上の販路に於て、日本の商權が廣く揚子江沿岸に振つていくこれは英の爲に不利である爲め、英人は盛んに排日運動を起し、日本商人に妨害を加へ、惡口を言ひます。今英國が日本に對して惡意を持つ理由は一寸もない。併し日本が現在滿、蒙に若干勢力を持つてゐる。これは英國には何等の苦痛はないが、米國が自國の敵となることを恐れて、之が銳鋒を滿蒙の方へ行く爲の政策らしく思はれます。

次に日本と米國との關係を若干申します。

元來米國は最初に日本に通商を始めさせ、色々の文化を傳へて呉れまして、初めは實によかつた。併し大戰後、彼は力を大いに得、世界第一の國民、世界第一の強國、世界第一の富國とならねばならぬと云

ふ考へが起つた。爲に西比利亞支那方面隨分思ひ切つたことをやり出しました。一二の例を申しませう。日本が西比利亞へ兵を出す、米國も之に加はりチエツクを助けたのでした、併し其の後段々形勢が變つて來て收支相償はぬ様になると、日本には無斷で徹兵してしまひました。

又本年の一月小笠原一等卒が米海軍將校ラングトンを殺した、所謂ラングトン事件を利用して、西比から徹兵しろと云つて來ました。

日本が樺太を占領すると直様抗議を申し込んで來る

ヤツブ島の如きも今度國際聯盟で委任された日本の中に入つてゐる。それに色々の八ヶ間敷き事を云つて來る。

又先達朝鮮が獨立運動をやつた、あれには米國の宣教師が裏面に於て大活動をしてゐる、兎に角米國は支那に於ける他國の勢力を撤退して自國の勢力を扶植しようとしてゐるらしい。

以上で外國との關係が分つたと思ひます。以前に皆仲がよかつた各國が、今は全く變つて來てゐます。支那との間も現在は中々險惡で、排日運動が非常に盛んであります。

世界の強國と云はれた中で獨逸佛蘭西は今も勢力がない。殆んど世界を左右する英米兩國は前述の通り、我國にあまり好感を持つてゐない。支那もさうであります。故に日本は目下全く孤立の状態にあるのであります。要するに各國は日本が發展することが嬉しくない、東洋に於て、殊に支那に於て、發展

するのには日本が邪魔になる、日本を壓伏してしまへば勝手に思ふまゝに發展が出来るのであります。積極的にも日本の發展を喜ばない、消極的に嬉しがらぬのであります。十一月に開かるゝ太平洋會議に於て、日本が最も痛痒を感じるのは極東問題であります。

かく思ひ來まして靜かに日本の現在の狀態を考へて見ますれば、國內に於ては愈々緊張を缺き、國外に於ては孤立であります、實に憂慮すべき狀態であります。此の場合國民が今までの様な考へで行つたならば非常な危険と思ひます。故に我々は内國と外國との關係を充分詳しく知つて置く必要があらうと思ひます。

次は軍備上の事について若干お話し致します。

一國がある以上軍備は必ず必要であります。人と人の間でも利害關係から喧嘩が起ります。人から成り立つてゐる國家と國家との間にも利害關係がある以上の喧嘩は免れることは出来ません、特に一國の國是を貫徹せんとするには、是非共軍備の後援がなくてはなりません。

分り切つたことですが、日本は年々夥しく人口が増加します、然るにその人口比して面積が非常に小であります。故に是非共海外に發展しなければならぬ、海外に發展すれば、従つて外國と衝突が起るそれ故に自然軍隊が必要になつて來るのであります。我が國今日の發展は維新以來の國民の努力に依るけれ共、又武力の貢獻したことも大であります。日清日露兩戰役の大捷は諸般の發達を非常に促して居ります。

ます。

これ等のことから我が國に武力がなくてはならぬことが御分りになると思ひます。それで日本が外國からおそろしい國だと思はれてゐるのは何故であらうか、それは單に武力が強いと云ふことのみであります。科學等は何とも思つてゐないのであります。それ故に只日本が困つてゐる時に武力が衰へたならば、その時こそ日本の立場がないのであります。

所が近頃色々な説が起つて來ました。即ち今後若し衝突が起つても、國際聯盟が仲裁して呉れるから戦争は起らないと云ふのも一つの説であります。

又某國の一參謀將校の言に、「此の度の戦争は最後の戦争で、將來は只平和あるのみ。」と云つてゐます。然しこれは只取るに足らぬ議論です。それ以來既に度々戦争があるではないか。決して色々の議論に迷はされないで、吾人は大いに考へねばなりません。

一体戦争は悲惨なもの、避くべきものとは誰しも知つてゐる様に、實際戦争は悲惨なものであります。然し戦争に負けた方は一層悲惨であります。けれ共日本は今までに一度も負けたことがない。それで實際に經驗して居らない。従つてその程度を知らない、故に天下太平であります。以前に獨逸は戦争は世界何處へ行つても威張つてゐました、それに今は國民は食ふことすら充分出来ないものであり、皆青い顔をして彼等の所謂ビール腹を瘦せてしまひ、寒中〇度以下の時でも靴がない爲素足である云ふ有様

又獨逸婦人は戦前で一般に質素でありましたが今は全く白粉をつけるものもないさうです、如此戦敗國の悲惨は實に立つ瀬がありません。今は漸次元氣恢復中でありますけれども、何しろ百億圓の負債は急に恢復することは出来ません。色々の人の説によれば、到底彼は前の状態になることは出来ないと言はれてゐます。

露西亞はニコラス皇帝が居られた時は、日本に敗れたとは云へ、まだ結構でありましたが、今は殆んどレーニン、トロツキーの壓制を受けて食ふに困つて居ります。

奥國では貨幣の價值がなくなつて、物價が暴騰し、食ふに食へず、遂に自分の子供を殺してその肉を食つたと云はれてゐます。

それに支那もさうです。日清戦争までは定遠鎮遠等の船を造り非常に盛んでありました。又東洋艦隊が我が長崎に来て大變な亂暴をしたさうです。朝鮮の京城等にも兵が來てゐましたが、日本兵を見ると直ぐ喧嘩を吹きかけた爲、日本兵は之を避けてゐました。歐洲各國も支那は衰へてゐたとは云へ中々遠慮してゐました。

それに一度敗れてしまへば、更に立つことが出来ません。日本には勿論諸外國にもオデ／＼してゐなければなりません。日本人からもチャンコロ／＼と云はれてもグツともスツとも云へません。その中に諸外國はあちらこちらから色々のことを持ちかけて來ます、例へば英吉利は威海衛を、佛蘭西は廣州を

獨逸はチンタオ等を取つてしまつて實に可愛想なものであります。

先年私は長春へ行きました、そこには日本軍も精兵も居りました。又十町ほど向ふには露國兵も居りました。その十町ほどの間は支那人の國で、高粱の高く成長して來る時分になると非常な危險が起りました。人殺などは絶えずありました。日本や露西亞の軍隊の居る處では、そんな危險はなく、支那の土地だけでそんなことが有りました。如此國威が落ちた場合、その國は非常な慘狀を見ることを自覺して居らねばなりません。

以上のやうに日本は目下非常に危險な立場に在るのであります、それ故に吾々は今大いに發奮せねばならぬのであります。殊に精神的發奮が必要です。尙武的精神が必要です。體力も大いに必要であります。體力ばかりではなく、一朝國家に事があつた場合には、各人喜んで兵となり戦争に赴くと云ふ精神が必要です。そして我が日本の國を守護すると云ふことが必要であります。それにも尙武心がなくては何も出来ません。西洋は科學が進歩してゐましたが、それ故に此の度の大戦には、兩方が互に科學の最大限を發揮してやつた所が、矢張り勇氣がなくてはならぬと云ふことが分りました、故に科學のみがどれだけ發展しても、精神的發展が缺けてゐては到底駄目であります。

例へば獨逸は最後には負けましたけれども、初めから終りまでよく戦つて、殆んど負けたことがなかつたのは何故か、勿論科學も進み、色々の準備も出来ておつたけれども、尙武心が非常に盛んであつた

から、即ち軍國主義が盛んであつたからであります、軍國主義とは尙武心を發揮することであり、元來英國は尙武的ではない。國民全体兵士に行くことを嫌ひ、徴兵令もなく、兵士は皆傭兵でありました。所が戦争が始つて英國の勢力が段々衰へて來、英本國が危険になつた時、初めて覺醒し、大いに徴兵令の必要を感じたのでありました。其れが戦争が始つてから二年目で、幸に戦争が長く續いたからして勝を得ましたけれ共、一時は大變危険でありました。

日本は昔から尙武の國であります、軍國主義であります。然るに此の戦争後、其は衰へて來た様に想はれます、此の様であつたなら、將來危険であります。

御參考までに米國の此の方面を一寸申上げ度いと思ひます。

元來米國は各國の民が雜居してゐた殖民地に過ぎぬから、取るに足らないと云ひ度いのですけれ共、戦後國家的觀念が大いに發達して居ります、一旦自國の利害に關する事が起つたならば、舉國一致目的の爲めに大いに働きます。

本來彼は商業國でありましたが、昨今は非常に變つてゐます。町の中へ入ると、到る處記念碑や銅像が立てられてゐます。又斥候隊と云ふものが出來て、一週に二回づゝ軍人の訓練をし斥候術を教育してゐます。又女子斥候隊と云ふものも出來て、女までも軍服を着て活動してゐます。全國に互つて二百萬の人員が斥候隊に加入してゐるさうです。各種の専門學校に於ても、先生は皆軍服をつけて各種の兵の

訓練をやつてゐます。生徒も軍服です。又理科専門學校等に於ても、將來戦争に必要な軍事兵器類が一一備附けてあつて、日本の士官學校以上の教練をやつてゐるさうであります。

故に米國民が斯くの如く皆國家主義よりなつてゐると云ふ事は大いに味ふべき事であります。

今まで申しましたことに依て、今日日本は一寸具合が悪いと云ふ事を御分りになつたと思ひます。

歐洲各國に於ても、大いに精神的に國家主義がさかになつて來て居ります。かくて彼等はその進んだ科學を利用して、大いに新武器を造り、それによつて日々經驗をして居ります。然るに我が國に於ては彼等の様な精巧な武器は少しもない、その上國民精神が墮落しやうとしてゐるのであります。これではどうして彼等に對抗して行く事が出來ませう。故に吾々には非常な努力と發奮が必要です。それで我が國に於ても昨年から制度を改正實行しつゝあるのであります。

新規定によつて士官候補生は全然中學校からは取らない。四五年から士官學校の豫科に入れます。幼年學校から來た人々と共に高等學校程度の學科を授けます。幼年學校は中學の四年までの學科と殆んど同じで、士官學校豫科は高等學校の文科と理科の間にある位です。豫科も全部官費でありまして、これに入學を志す人は從來は非常な六つかしい手續がありましたけれ共、極簡單になりました。本人から直接に願書を教育總監部へ出せばよいのであります。試験も大体場所が一定してゐます。併し自分の好きな所で受験することも出來ます。

さて今までお話ししたことに依つて、今後の將校はどんな人が必要かと云ふことは御分りになつたことと思ひます。今までは勇氣があつて、からだが強ければ、それでよかつたのですが、今後は勿論勇氣が無くては、からだは弱くては物にならぬけれ共。科學が非常に進歩してゐるから、能力ある者、頭腦のよい者が必要であります。

又彈丸が雨の様に飛來る中でも、平然として上官の命令に従はねばなりません。即ちどちらか云へば親分肌の人が必要であります。でないに部下の者が心から服従しません。さうすると戦場で充分の効果を奏する事が出来ません。假令それまでなくとも人望のある人が必要であります。そこで陸軍の方でも、この点を鑑みて着々改正をやつてゐます。

現在士官學校から出た人は、下士から出て來た人よりはるかに上つてゐます、即ち陸軍の將校になるには士官學校へ行くのが非常に有利であります。諸君は各自の体か能力等に依つて將來の職業を決める必要があります。併し人は成るべく成り易くて、成つてからも樂な方へ向ふものです。だから軍隊等はつまらぬと思ふ人がありますけれ共中へ入つて見ると中々男性的で愉快な所が澤山あります。殊に近頃の様に飛行機に打乗つて、敵の上から爆彈をうち降す等は最も愉快であります、軍人などになるのはつまらぬと云ふ様な考へを持つ人が澤山できたら、それこそ一大事であります。

一体兵隊の教育は平生の訓練を戦場へ持つて行つて、自由に應用し得る様にすることです。平

常幾百萬の兵士を使ふ事は何でもありませんけれ共戦場へ出て之を思ふ様に使ふことは中々ので、あります。實は將帥の技倆が、必要あります。例へば日露戦争の際奉天の會戦に於て、我軍が少數で彼に捷つたことは、一つに統率者の指揮がよかつたからであります、奉天に於けるクロバトキンの如きは偉い將軍でありました、併しながら彼の命令が充分用ひられ無かつたのであります。又獨逸が此度の大戦にあれただけの戦績を残したと云ふこともヒンデンブルグ將軍の指揮がよろしきを得てゐたからであります。尙恐らく今後も國家の續く限り、軍備と云ふものが必要でありませう。然も今後の戦争は飛行機、飛行船、タンク、毒瓦斯は通信機關では無線電信、無線電話等あらゆるものを用ひ、人智の限りを盡して戦はねばならぬからして、一層將卒の力が必要であります。そして此の方向には尙研究の余地が澤山ありますから、大いに研究せなければなりません。

どうぞ諸君、元氣のある人には大いに此の方面へ發展して頂き度いと思ひます。我國は海軍國であるから、海軍は必要であるを唱へられてゐますけれ共、最後の致命傷を與へることは出来ません。

以上はザツと制度の改革と、日本の情態を極概括的にお話ししたに過ぎません。これでお話しは終へて置きますが、聊かなりとも諸君の御参考になる所がありましたならば私の最も光榮とする所でありま

す。



論説

一つの意味

佐竹貞一

私は「意味」について、述べて見たい。すべて物事に「意味」が附せられると言ふのは、其物事の表現せられたことを言ふのである。

アリストートルは植物には植物精神があり、動物には動物精神があると言つたとか言ふ事だ、此問題は二つの見方がある。即一は植物間の心的交渉で、一は人間が植物精神は斯くあるべしと、推斷して植物に對し及び植物を人間間に於て、通用理解することである。動物の方も一は動物相互に意味の交渉運用をなし、一は人間が動物及人間間に動物心理は斯々として、動物を解し運用する事である。

一植物精神は、極簡単な活動であるに相違ないが、動物心理になると、餘程人間に接近してゐるらしい。例へば猿が或意味を附して叫ぶと相集り又或意味を附した動作をするとか散々に逃げる。犬の怒つた時となつて來る時とは違ふ。昆蟲が色々の音を立てるのは、性的意味を表示する者が多いと言ふ事

だ。此等動物心理は人間の心に似た点が餘程多いので、取扱に人心を應用して能く相合するものだ。

私は植物精神、動物精神を解剖して茲に其表示する、諸種の意味を述べるのではない。次に人間心理に於ける意味を、それも極あらましを述べて見たい。

簡單なる意味 吾人の感覺は視覺、聽覺、味覺、嗅覺、觸覺、壓覺、溫覺、冷覺、痛覺、筋覺、氣分其他第二次感覺、反對覺等にせよ、極原始的の意味を表示する心活動である。之れが聽て互に關係を結び發達して外物に對する知覺を生ずる。元良博士も知覺は事物に意味を附する事なりと、言つて居られた事物の纏つた意味は知覺に始る。

意味の發達したもの は即觀念。概念で其中に記憶、把住、想像、思考などの作用を伴ふ。一口に觀念概念と言へば何んでもないが、これ等は殆ど人間の生命で一舉一動を支配し、一進一退を生ぜしめ、喜怒哀樂の格位を來たさしめる。だからして人其人の有つて居る或意味が其人其者となる。人間は意味の發達に一生を投じて居る。

如何なる人間も日常自己を或意味により統一し、一より多に、多より一に關係をつけて日を送つてゐる。しかし人其人の保有してゐる意味の統整が、他の人の持つてゐる意味の統整と較べて何れが甲なるか、乙なるかなと言ふことを論ずる事になると、随分面倒であるが、實は人間は其意味の統整の位階を

比較論評して、人生理想を判定し、行爲と思想感情の格位を最も意味あらしめん事を要求して止まないのである。

故に今少しく意味を解説してみよう。

意味の普汎性事物の意味は大部分其普汎性に依て、彼此相通するのである。之に依て心活動の連絡がこれ通して相和合する。疑問とか衝突とかは發表と受納との間に此普汎性が通動してゐないからである。往々にして一方の表示してゐる語の意味と一方受納した概念と形式として表はれてゐる語としては、違はない一の同じい語であるのに大議論の焼点をなすことがある。之れは内容の普汎性を相交渉して覺了してゐない爲の誤から生ずるのである。からして爭論を進めると其間に両方相通すると言ふ伴象を來し、論者各の立脚地をして一笑に附せざるべからざるへまを來す。

すべて議論を進める場合には、用語の概念を明にし、而して後論戦に入るべきである。此場合には論理學の示す處を十分に踏むのである。

意味の個性も一言する必要がある。つまり或意味を以て言語、文章、繪畫、彫刻、建築、土木、事業、音樂、動作に表出しても、對者即ち之れに意味を附して見る人に、其表現してゐる個性味を理解せられないのが往々ある。これは哲學味、美味、宗教味等によくある事だ。老子の道、孔子の仁、周子の太極、朱子の理、釋迦の正覺、馬鳴の起信、禪の悟入、法然親鸞の念佛往生の心理、さてはソクラテスの智、プ

ラトーのイデア、アリストートルの精神論、キリストの降誕説、カント、ショーペンハウエル、グリーン、オイケン、ベルグソン、デカート、エレンケイ、シエクスピヤ、イブセン、ニツチエ、トルストイ、ヘッケル、オストワルド、素行仁齋、藤樹、尊徳、益軒、篤胤等東西知名の人も、知名なる丈それ丈影響の大なる意味の個性を有つてゐる。だから其人その考へ即意味の附け方を、よく味はないと其哲學、宗教、美、道德、政治、教育的見地を得る事がむづかしい。大方深く究め、廣く解し其人となつて徹を穿てば、幾多聖賢の考へ即意味の個性も、其各の間に炳として光明相通し、意味の普汎性と化して、個性即普汎普汎即個の妙味を得るに至る。

意味の廣さ、深さ、良さ茲に人あり、並の人だつたら自己の行にせよ、生業にせよ、宗教觀にせよ、人生觀にせよ、腹の据はるまでの研究をする欲求を持つてゐる。からして各相當に意味の個性を保有してゐる。

しかし其意味の個性が經驗や思索の足りない時は、一段上の意味の保有者に接すると、今迄の意味は導かれて向上し一層廣く深く、良くなる。

斯くて修養に修養を積むと、多く賢聖の考へも分り、それに伴つて自己の考へも確立してくる。そして相共鳴するのを樂む。時代、時勢地位、境遇によつて、統整すべき材料は人により違ふけれども、統整する心の状態即意味の普汎性は同じいものである。

一つの意味最も廣い最も深い最も良い意味は一つで、萬人等しく保有すべきものに相違ない。於茲か人は平等で各尊さを一にしてゐるのが分る。自覺する。此心を以て對すれば幾億の人と雖幾万斯年の時を別にすと雖相通しない事はない。縦にも横にも無窮の延長性を有つてゐる。こゝに至つて明あり、信あり、定あり、樂あり、常ありだ。其力の強い事も絶對だ。尊いのも絶對だ。

人生は意味の生活吾人は生れて長じ、長じて事物に意味を附し、附して改め改めて附す。古今東西意味の文明に資するが一生の仕事だ。無論三度の食事の意味を附して而も宇宙に通徹する意味を附して、喰ふ事になる。人は意味に生存し意味に活動し、意味に現在と永遠とを貫いてゐる。吾人の發達は意味實現の向上を指す、社會の發達は意味實現の進展を指す。人にも社會にも刻々實現進歩して止まないのが此人の世界だ。

意味の光は廣大無邊で、事物の本質其ものだ。故に此一つの意味は尊い不滅のものだ。人各も之れが人各の本躰だ。不生不滅だ。萬有歸一の妙理だ。一つの意味で己れの身心を支配統整し、萬有に連結統整して生活する刻々は、眞の人間生活だ。實に尊い。楽しいのである。

現代中學の教育方針を論ず

三 丙 大 崎 彌 太 郎

雞鳴く田家の籬落の下に、玉英金蕊點々星の如く、團々總の如く亂れ咲く菊花の、馥郁として露に匂ふ、實に愛すべきに非ずや。

試みに之を鐵鎚の聲響しき工場の門裏に植ゑんか、立揚る鰲煙黃塵或は油、炭の臭氣は、瀟灑なる花清逸なる香を散々と蹂躪して、菊花幽遠の氣韻を吐くに由なからしめん。

蒼翠の色深き外山、嫩芽の匂高き綠野に放牧されし馬匹の、如何に逞しきかを見よ。試みに之を人家稠密せる間に得たる沙磧の空地に飼へ、其の狹隘なる瘠地、いかでか馬畜が勁健を望むべき。

菊花のみに非ず。馬匹のみに非ず。人亦其の在る可き地、採る可き道に據らざれば、安ぞ其の眞價を發揮するを得んや。予は常に憂ふ。現時の中等教育は、其の方針に少しく錯誤無きに非ざるかと。

中學校は、固より男子に須要なる高等普通教育を施す所なり。目的既に然り。故に其の方針亦此の趣意に適はざるべからず。

予は今日中學卒業生の社會に立てる者が、高等普通教育を受けし紳士として、餘りに其の内容の貧弱なるに驚かざるを得ざるなり。其の貧弱なるは何が故か、彼等卒業生が在學中怠慢なりし爲乎。否。彼等の無益の學に、無益の努力を費して、他の學科に勉むるの餘裕なかりし爲なり。何をか無益の學といふ。尙も國家の中堅となるべき中等社會の國民を養成すべき中學校にして、無益の學科を備ふる理なし。然し其予は英語を指して、彼等中學校を終へて直に社會に出づる者にとりては、無用の學と言ふを得と